

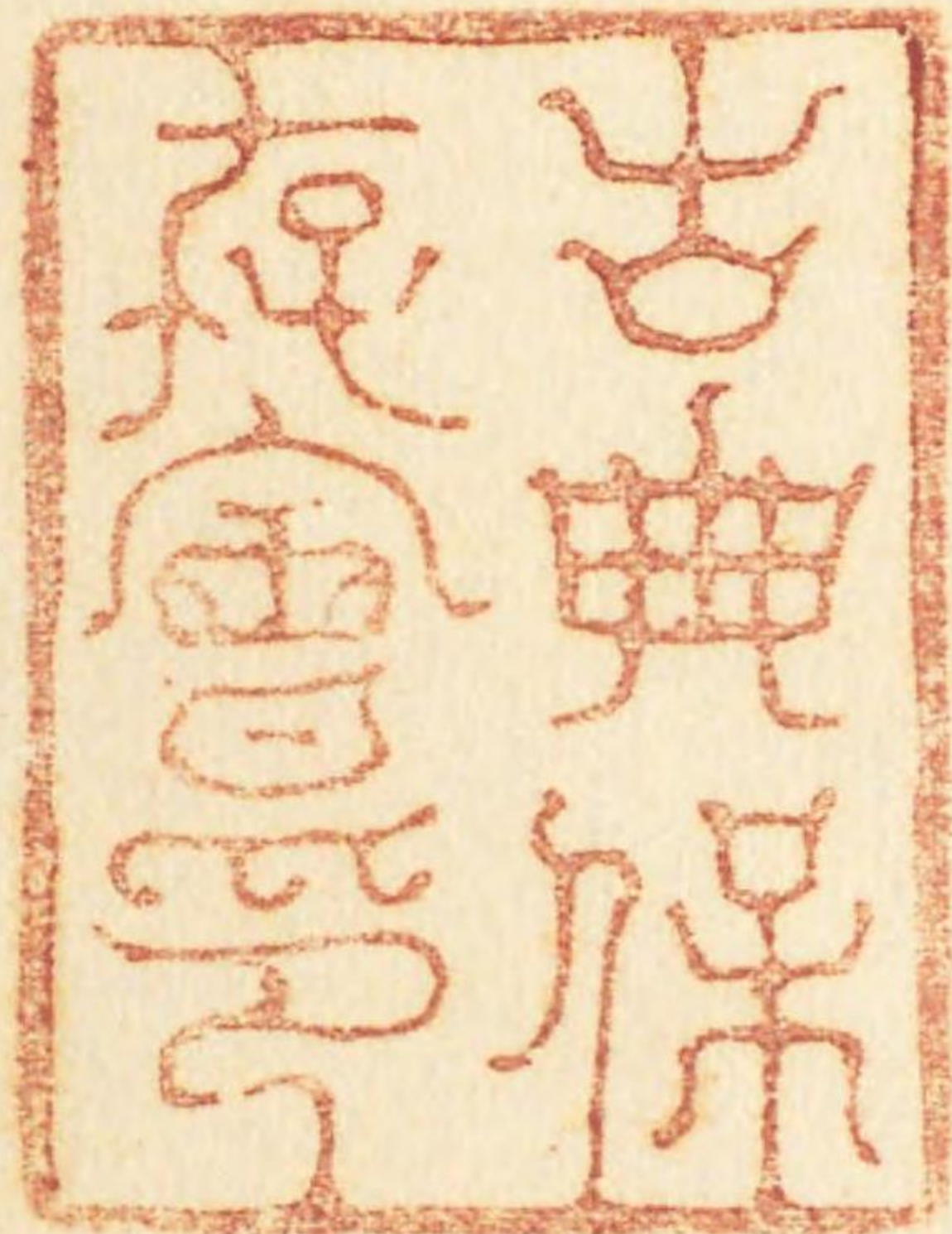
江談抄

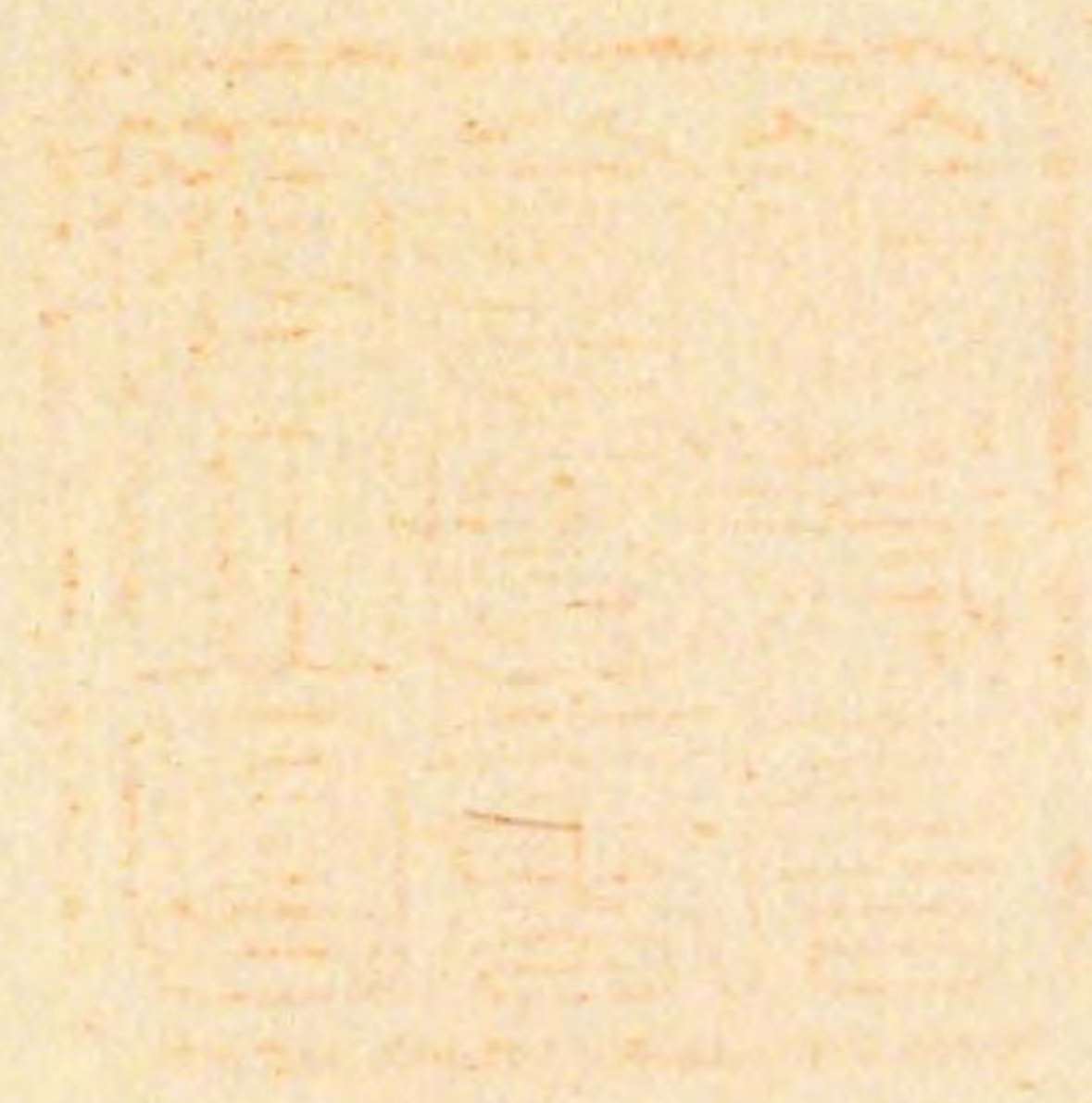
914.3
O236g



216516

914.30 236g







言談之次被談云自又此間世人何據申侍
答云今始知此事由平被談云而因事侍也世人
皆各有云據云其故者去年淮陽道僧鄒慶增

一曰一人有之焚感之情
也者响應

一曰
乍方也

思修也

或精八益趙

事間山二降念李厚川

精降
又下云

李淳風大星事

大星事

李淳風大星事

太玄主人令見二白頭翁謂又李淳風之焚感
精也如此精皆有此事也云

木工助敷隆之末之二
言談之次

何力虛光事
答以樣伯夷

音音八孤竹二子也
音廉勝方事
廉勝方不知

云未見此予問云其虛也何伯夷勝此天力試
于廉以自廉二令與之其音不堪于飢心中

欲食此庶之慶二
庶知考心依古
此言

半字商

華文商卷

惟賢人君子文道之諱論俸漢共有中

帝与甄明遠第文章之而明帝于性甚以

西惠也仍甄明遠致是之故一人云文章多

人隋煬帝与陸道衡年道衡過校

致一云

文時詩卷事
平向云本朝人集中以誰人集可指亦初命云

以可習文時之粹也云文章好者

何見我草云其草以性雖賢迴同情尚以燕強

七云

詩事

一云言采氣二等

詩事

七云、

又古条宮ノ伴胤ニ禱スル可シト有ル云々云々又芥集ノ

伴胤ニ令リ同シ給フ云々云々於筆者不出ル

菅根類事

又被命云菅根云々云々者也云々雖然天祚ニ類シ奉被打也云々

又同云何事乎答云屬上庚申夜云々

藤氏傳

又被命云藤氏所用之始佐也昭宣云家司云々

被家赴ニ天祚ニ被引テ給フ令出給ス時濡者皆

卷不用云々昭宣云云々被歎息云々切ニ被乞テ請フ云々

同云何故不請云々

被答云云市有理云々化家良秀云々亦藤云々乎云々大我亦

流不成云、雖拉藤氏、吾流去、可昇進、

唯出遂以所冊向頭儒良秀也、所冊只、昭宣公數甚

席下進、命申請天道給云、

免表賦、入文選事

又被命云、一物集、渡唐書也、見老表在賦、唐人云、此賦

此國、德代人、作怒、又進、入、尤非也、

北野、音、不、音、事

又被命云、故、經、信、師、常、被、示、于、聖、廟、御、回、忘、音、樂

伎、廟、社、可、傳、中、也、管、家、御、作、仲、秋、既、月、之、姓

庭、家、忘、以、長、忘、之、句、九、月、菊、酒、飲、序、人、害、御、給、也

然、右、音、樂、事、可、被、吾、以、予、情、系、此、未、難、計、也、非、慮

其大者身事不... 言也方... 處

之趣暗以難測也云云

任信歸此與此而不下事

又被命云任信歸... 色代之逸物也... 奉日... 院... 在... 籍...

北野前不... 云... 被存之... 揚... 渾... 云... 曰... 位... 不... 拜... 二... 位... 云...

然... 亦... 不... 享... 非... 礼... 下... 若... 下... 以... 似... 不... 知... 礼... 云... 雖... 然... 也...

相谷以希代... 勝事

永文二十二月十九日... 夜... 討... 隔... 隨... 以... 送... 日

菅家所作不知事也

被命云菅家所作之中... 尚... 送... 房... 力... 不... 知... 事... 多... 云...

被卷云尤理也... 主... 房... 不... 知... 中... 然... 在... 漸... 所... 學... 之... 才...

智令習... 信... 文章... 天... 令... 受... 信... 也... 不... 可... 申... 在... 庭... 場...

樂符標... 詩... 官... 斬... 作... 損... 事... 果... 子... 采... 等... 言... 竹... 下... 負... 之... 奇... 由... 及... 乃... 亦... 亦...

樂府採詩官新作損事

樂府採詩官新作損之有失錯之由被作今云

全知于甲し俗尤希矣也然尤居易ノ樂府上下

作力諷諭詩之也然作損如何之

又被今云音家後集馮野大夫卿作如大夫者二三

元之句尤有興以此詩次句化相公應煩劇務自

鮮時堪想陽儒重見此句善相公漢詩以

不力力久今此俗

予又問云以与音字用平声作之詩於可憐也

後命云不可憐 天祚卿作鶴苑千里來離地之句

之之夏也下人音之句雖字屬字也詩云云子云

善相公被申音家事

尚書字用平聲事

和合不可不

生在爐邊平不藉之句離字霸字毛詩序子云

艾有字也考之尚不俾被用平声又胡紹登有詩以

古音字用平声之時評定諸濡於仗底欲落第

胡紹登云詠云藉荒千里未離地音頌諸

胡紹登云入之處胡紹云音五羽符保之書

同天侍之下云九逆長身主例食牙故有謂可

及第也下被保下之出也不可俾乳

被命云逆長身時滿海因使二人未朝之俾狀云

井木井石訓事記家

井其井井此二字各為使二人姓石紀家見云離

...

未知改字字之井木之... 井石之... 井石之...

變各應令泰之異國作字之富時會擇讀之

可謂非也異國者同之盛之

成衛道事

又此命之三者道心者也每日念誦讀法敢不懶

誰然自不也收道心之異國事非他事也亦有

假以又者故可謂信者常之頸紙不卷又水千其法師

衣之結綰五于許... 殊教之持不論精氣不精也

雖食葷腥以先聖先師助佑... 云乃于口實或又常

成衛稱以家文預事

披累代之文書終理于朽損皆悉捺印重之去極或

一司之可文之此流司之... 中... 上... 一... 之... 之...

有... 有... 有...

人問之何故如此此問在 辭身江家文預也 詩命九

又予問云白簡行作賦中二以何可勝予被卷云望是

化為石賦第一也抑白簡行八被知予何流年云、

卷云不知社命云居易之弟也 賦簡行勝云卷云

然者何老人尚以集強不規模年云被命云詩者尚

居易第五人等

居易勝也尚行不可歌云 居易兄弟五人也其中

其中有敏仲者

有敏仲云

文集中有他作事

又彼命云文集中他人作入彼知半卷云不知何事

被命云第六快中李紳作詩也予詩如何被命云長添

鴻寶集五離小集統云 鴻寶集上云大集統云也同茲

文集不可...

文集不可... 揚孝親... 大卒... 故揚孝親

常信之取... 不忍諸凡... 故... 鼻... 也...

被命... 馬名... 被知如何

馬名

赤六 種坂十七栗毛 空地 身子

尾白 棒原 翡翠 若菜

別栗毛 御坂 近江栗毛 三月月

本白 和琴 宇都濱 穗檀糟毛

身歛 花歛 光 野口

宮橋 前黑糟毛 後黑糟毛 望月

言成 序三

宮村

赤蓮教毛

尾張新毛

日

宮城

野王

尾花

日矣

蜂類

大目子

少目子

白糸

夏司

又近頃舍人若得如何

舍人

尾張女后

并
重名女后也不改
用訊云

六人部助則

尾張兼時

山廣景

播磨武伴

同定云

淡田助平

卜野重行

石師武利

清井正武

一雙隨身事
人二隻直事

一雙隨身

又一雙隨身

村上御時

兼時
本信

重行
武文

月野元

武文
正近

一修御時

公志
正近

後朱雀院

近利
助文

後冷泉院

近重
助文

笛事

笛

大水龍

小水龍

青竹

葉二

柯亭

讚岐

中管

釘打

雁鉤

篳事

篳

望

大晴景繪

法華寺

不替

雲和

小葉

琴瑟

玄象

牧馬

井手

渭橋

木繪

元興寺

和琴

松名

和琴

井上

鈴鹿

杉目

阿霧

齊院

宇多

第

大隈田

小

七

簪

大螺鈿

小

秋風

三鼓

三鼓

黑筒

神明

号并响黑筒

帶

帶

唐馬

落花形

垂耳

揚款

雲形

鴉魚天

鐏

鐏

鴉魚天

硯

硯

臺切

露

鷄冠木

宣統

法

上

下

寸

是

卷

...

...

...

...

...

...

...

靈

觀社木

玄

予向云象牧馬元者何時毘毘式被命云玄象牧馬者

止此聖去御毘毘式伴御毘毘上手玄上記カニ云モリ

予又問云然者依伴名合付以被命云不委覺也

為寶物事

又名物寶物不名紗知平也何卷云不知給被命

云横田者大水龍山々々天曆所付寶物也青竹葉二

仲葉二、高名笛也傳在故入道殿在二後冷泉院所付

字以藏人得申伴笛藏人名不覺不得意イテ

齒二イテ申付イテ入道為秀向イテ得伴之様雖也

丸之倫イテ不可背但齒二イテ難堪イテ若笛ノ

第二カテ

業二 カニ 今名後云々 不替高名半也此名有由

備也唐人賣之時欲買可也 唐人云云云云云云 何号也

又此也 井年 云云 此也高名也 近此孫 云云 十五官子

受 官卜 中人 此也 傳命 在字 法實 歲 謂 搗 又

高 右 此 也 也 三 多 武 部 所 賣 也 也 小 此 也 後 冷 泉 院 所

實 地 也 小 螺 鈕 高 倉 官 此 也 元 興 寺 一 名 初 此 也

後 冷 泉 院 所 賣 地 也 元 云云 乃 財 也 可 後 冷 泉 院

春 宮 之 時 仲 高 割 雷 力 充 官 收 理 令 賣 以 他 殿 金

後 來 菴 院 令 買 於 後 之 官 令 傳 在 局 卜 本 僧 又 在

多 卜 之 官 卜 官 馬 官 是 是 也 二 官 卜 官 元 之 賣 也 云 云 云 云 寺 官

此也元興寺

又此也

殿下无名，云高名殿，延上東門院ノ寶物，令持信
之河，清政三位，三年，令所生之同焼，三焼，三ノ云

和琴，鈴鹿是，累代帝皇渡地也，河霧在上東門院

渡令持信之時，故大任右大臣，令初奉信引出地

被抄の傳在，局下字多，信師寬平，信皇所和琴也，所經

之時，是所多良之，下云云

帶唐鳳事，唐鳳落花形，共在，所當寶蓋，鈕，臺切，但臺切焼

孔未詳，仲鈕，累代東宮渡地，而後三條院東宮

時，廿三年之間，入道，局下令，所信云，云云，在氏腸

...

東宮ノ寶物也 何れ東宮可令得信乎云 何れ後三條

院被仰之 振壹切我ハ无益也 乘_レ了_レ夏_下被仰_{ナリ}

七_手 遊_二山_即位_後ニ_レ被_至是_皆在_人ハ_傳談_也

随方多寶書

又故師方四之常談云 道力ハ公家之寶也 三寺院内正

遊_才 横者可有難_云 一生之浪不負_覺馬_云 自

今寶物注別紙云

永久三丁 三月 夜半

被談云 清幸物清云 官爵云 福祿皆ハ 文道之種可

曆_何人_ハ 所_况才_藝名_譽 跡_邊於_中在_人 何_思後_也

誰_以自_費又_非之_謂 今_昔及_三丁_可之_也

不歷藏
事

雖似自讚又非之謂於壽命者及七十而止代之難
有之也非短壽之於顏回至聖僅二十世也同
事全去而思三只此是恨不歷藏人及子孫の不也

家又善欲

久天也及此下是下李下れ子孫アヲツキカ何シ思ツカ傳ラテテ

史記

家又善道し執中皆以欲懼滅也就中史出全統
執說從テ欲滅也元重授之入世下ニ少欲諸中也何
答云生中之慶何以也之乎請答云史記亂建二只

菅三

三卷ニ本化卷一キ後漢書ニ以八均論也六前注別做
才子傳也

神孩云菅三二而執作老用何該被心得也何卷云未
得且且

得但粗依乞父之談，僞畫文字之樣，而取知也。
自畫夜各一字，可必數十廿一字，以之被讀云也。
辭如扇本末也，伴行文時入三箇年之間，時言不辭。
不素作也，草了之後，乞令見順，詳之慶順見之。
一夜之中，令和令送文時，許之文時，大令歡示，信不覺。
人之由時人，又以難之順之具故，不辨凡只，去念也。
又至其時，一也，是也，想也，云也。

河原院賦事

被讀云文時之順，順之不受也。以順而作河原院賦之。
又特見天云文時之過矣，以但賦時之。又自中間之實。
之亦賦之文章，其末也，久不之。被云也。七年此賦我見順。

一丁丁

不令閑步被云云

博雅之位流暖木由博會故目暗事
被讀云博雅三位ノ横出吹尼ノ吹落被知半為卷云

盧介函知他也又伴人ノ會故目暗其也習被知半

也少卷云不知被讀云尤有興中博雅三位高名管法

人ニテ道シ重シ求ニ會故目暗其也寂上之也凡

同在上ニ人ノ難ク請習更ハ不傳又任前也ハト云々

伴向人少ニ博雅先以下人内ニイハス也ヲカクテ不思懸

而ハ注スル事ヲ京都ニ居テ是セカシトスカスニ目暗詠被云ヨク也ト

手モカクテモスクニムニヤモカモハテハト詠不答使者以此

由云ニ博雅思様此日暗命有且暮我モ壽ハ不知子也尚

世和... 壽... 尚

流泉... 木... 由... 此... 日... 暗... ノ... 多... 傳... 津... 礼... 相... 稱... 天... 肉... 彈... 天... 欲

傳... 之... 處... 三... 箇... 年... 同... 夜... 向... 會... 坂... 日... 暗... 許... 竊... 之... 因... 定... 頭...

更... 以... 不... 彈... 三... 年... 八... 月... 十... 五... 夜... 才... 口... 定... 多... 花... 三... 同... 廿... 七... 吹...

博... 雅... 思... 樣... 今... 夜... 有... 興... 夜... 會... 坂... 日... 暗... 流... 泉... 歌... 木...

今... 夜... 彈... 思... 琴... 譜... 向... 會... 坂... 如... 糸... 琴...

地... 鳴... 程... 盤... 涉... 調... 鳴... 博... 雅... 列... 尤... 有... 興... 蒙...

本... 是... 盤... 涉... 調... 也... 今... 夜... 此... 信... 鳴... 定... 欲... 彈... カ... ト... 思... 于...

定... 思... 而... 日... 暗... 獨... 坐... 心... 人... 詠... 歌... 云... ア... カ... セ... カ... ノ...

世... 之... 中... 有... 一... 人... 其... 名... ヲ... ス... ク... ス... 上... 手... 詠... 于...

古... 之... 事... 也... 子... 詠... 有... 上... 手... 詠... 于...

鳴弦ハ博雅流浚ヲ啼泣ス好道ハ思ハ目暗ク

獨ハ又ハ有興ハ夜カ若我ト今夜ハ也ハ

了ラ今ハ夜ハ心得タ人ノ來ハ遊セ獨ク

同ク博雅出音云博雅ハ春タ目暗ク

同ク然レ也ハ春日暗ク同ク感シ獨ク

坐シ心ハ傳ハ仲由云博雅依不レ隨ハ其レ也ハ以テ譜ハ傳ハ

請ハ歸ハ諸道ハ好者ハ可ク如ク也ハ近代ハ作レ祇ハ以テ不可ク有ル

七ハ諸道ハ五ハ事ハ也ハ誠ハ以テ又ハ問ク

仲由近代アリ也ハ彼ハ卷云不レ然レ又ハ問ク仲由暗ク名ハ夕ハ彼ハ

答云送ハ不レ覺レ但ハ千ハ歲ハ也ハ又ハ問ク橫ハ笛ハ博ハ

惟ハ五ハ天ハ凡ハ在ハ也ハ又ハ問ク橫ハ笛ハ博ハ

惟ハ五ハ天ハ凡ハ在ハ也ハ又ハ問ク橫ハ笛ハ博ハ

雅極天在勿仇在勿 彼卷云 第一也 主覽者皇代回龍旋と
第一曲二用也 傳者少仲人而傳也云々

永久三年八月十日 隨以得傳之

伴大由言事

被諺言伴大由者其祖被知乎卷云伴大由之略見
此以被諺言伏文云 事也傳因侍也伴大由之奉之
佐渡回百姓也故回郡司 從天侍云 彼回云善
夢事

男夢中見云 西ノ大寺ト東ノ大寺ト 跨テ云 見テ

東ノ女ニ語由東云云ト言ノ勝テタコシカト合ニ善男警也

無由事と 語テ云ト 思思テ 主ノ郡司定ニ行向ニ 伴郡司

極相人云云 年來 七毛人又ニ俄夢ノ故朝行云云 取

目主云云 天云云 二ノ人云云

因座^天出向^天事外ニ^ニ登^ニ應^ニテ^テ 且昇^六 善男成^佐テ

且又世^ニ撰^テ我^トス^カテ^テ 此女ノ^イ是^ニ撰^ニ 云由^事ニ^付テ^踏

カ^ニタ^スル^ニト^ト 思^レ福^ニ 郡^ヲ讀^ル 其^ハ高^名高^相夢^見テ^{ケリ}

然^ト云^由人^ノ談^ス 女^大位^ニ立^ルト^モ 定^テテ^テ 故^ニ不

慮^外事^出来^テ 由^事以^テ云^{ケリ} 然^向善^男付^儀テ^京

上^シテ^テ 阿^リカ^レ 福^ニ 七^年ト^云ニ^大 師^トニ^云ニ^云 福^ニ 故^夢合^フ

故^テ 亂^流伊^臣回^云ニ^云 祖^父一^由故^傳語^也 又^其

後^ニ 廣^後父^ノ 後^貞モ^波 田^ノ 住^人ノ^語リ^キト^モ 談^リキ^ト

又^故談^テ 村^上所^時言^言 寫^轉 恍^々 是^詩 在^文 將^ニ 任^被

語^ニ 于^同 地^終 被^知 事^少 答^云 不^知 被^語 尤^有 興^也

半^日 寸^寸 事^目 事^目 事^目 事^目 事^目 事^目 事^目 事^目

村^上 与^之 特^許 之^事 論^事

...

伴月村と与文時相平二相論月也伴月製云

浮語日花底月落高欹柳陰小令伴信と文時西接

月落花間曲中居換珠裏音と作名し八主上引食天

我多此題伴核思文時詩又非也被伴

古文時遊於所前元編我カ詩事元停可中難

有元下被伴文時中云所製非也待但下七字文

時詩三毛丁七子多所柳陰官思上句

官心令伴所作圓官可伴中村

被伴撰之下不知カ于圓我カ圓被伴文

詩中云...

將申云然コソ侍之

上林苑ノ心言ノ侍之誰然コソ

侍之カラムト申之

尤有謂ト被作ニ一同答云又有興作コソ

了ト云テ

申テ退座ニ主ト又被作撰然云

我詩ト足下ノ詩ト賤劣ト隨可畏中ト被作ニ文

時申云所製ハ令勝佐尤神妙也ト申ニ主ト被作ニ

撰^与云不然ト隨尚可申也ト被作テ品藏人ト被作

撰若文將不中此詩勝者依實不^レ中者自今以後

又時中^中不可奏量我^リト被作^テ同テ文將中云

實ニ所製与文時詩ト對座^ニ所座ト申ニ實ニ可撰言ト

...

彼尔又申云实云文叶诗今一膝后上天约上中天
逝了了主上令感歎信涕泣信云

都督被按云特棟者全不讀任只理趣久行受

請清氣滑都云又款音之買音不讀只親音上云

補阻霍山續云云

又被談云早春川宴題始于樂我天皇所特弘仁四年

春也既寫花野相云抄此題云

天女帝欲讓於推高親王事
又被談云天女皇帝有讓宮位于推高親王之志云

大政大長志送
惣攝天下政力弟一長博思不出自口云

司所...

向衡後教有云、或祈請于神社又終終祈于
佛力真濟僧正力小野親王祈師真雅僧都力

東宮維持僧云、

塔城後不知其前事

又教命者塔城天皇山陵而殊不知在不在云

顯基十師之口宣事

又教命云天造中由之顯基云元各被罪天記記可

手著月尸字下常願云、

五節之時發應就事

又向云五節之時亂口殊令珍合應事何故乎被命云

五節例只用行方通字直後元之
於五節之時相語亂

口亦ハ義麻裝束各々与也云云力は五節了し役也

不表其由後事

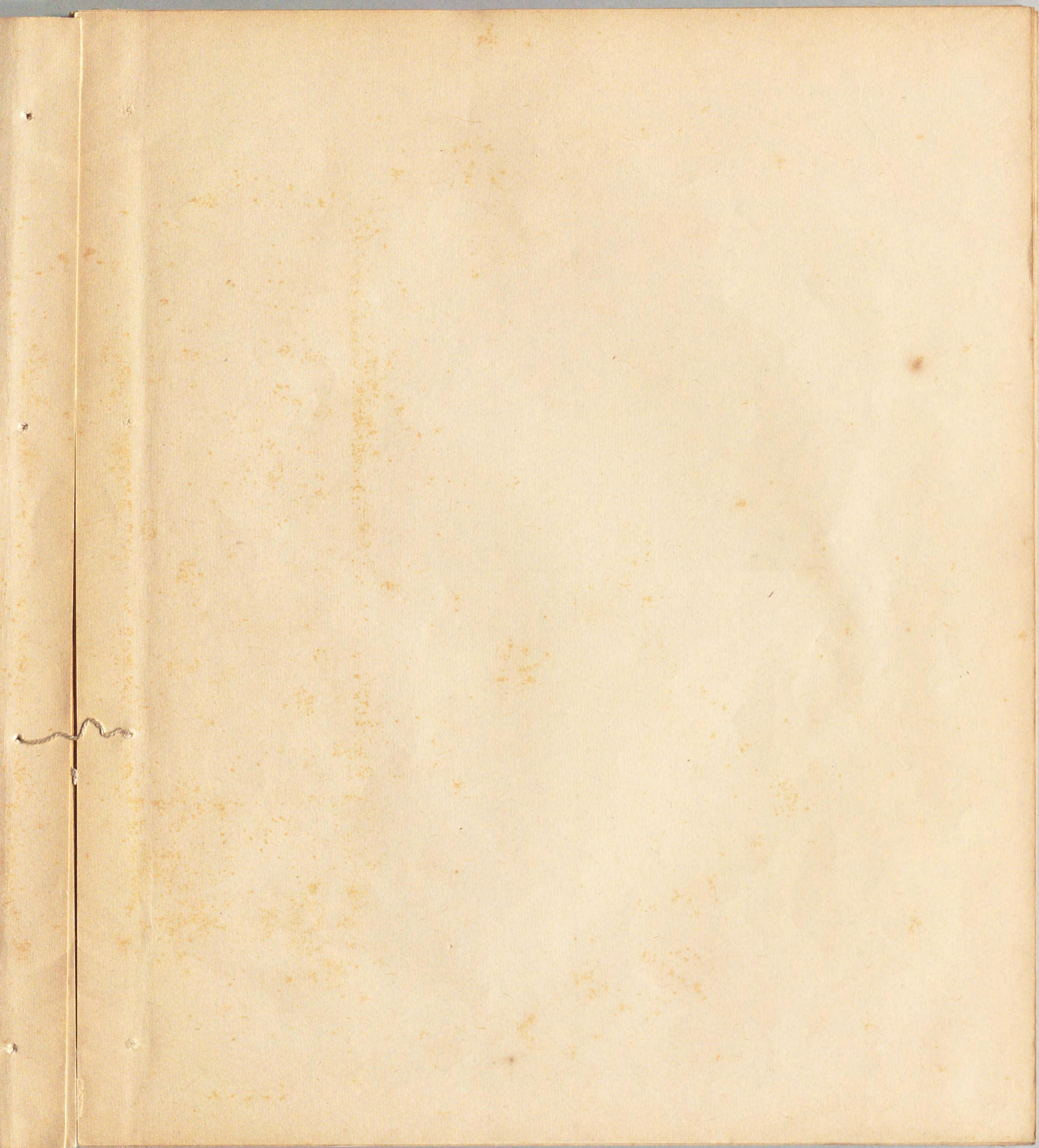
口丁、漢、麻、山、事、名、也、云、云、在、何、五、年、丁、也

記師儀舉地核事

又記師儀舉地核事後三宗院令供養月

宗寺信之町森坊東力人之振俊源朝長始梅

出事也云



神田喜一郎氏藏江談抄解説

江談抄は學識文才を以て一世に推重せられし大江匡房の談話を藤原實兼（少納言通憲の父）の筆録せるものにして、その書世に流布すれども、流布本は後人の手によ
りて分類體に改められしものにして、原著の面目を失へるものなる事は、筆録者の孫なる醍醐寺座主勝賢手澤本（醍醐寺三寶院藏）の出現によりて明にせられたり。本
會は第一期に於てこの醍醐寺本を複製したるが、今また原著に近きものと認めらるゝ神田氏所藏の古鈔本を複製して世に紹介するを得るは欣幸とする所なり。

この神田氏藏本は卷子本にして、表紙には大なる菊の紋を織出したる紫の綾絹（幅七寸四分五厘）を用ゐ、外題なく、緒あり。表紙裏には方形の金銀の切箔をおける
白紙をつけた。本文は、斐紙十二張を繼ぎ、天地に白界を施して書寫せるものにして、毎紙高一尺四分乃至五分（天地の界の間八寸三分五厘乃至四分あり）幅は、第
一紙は最初の部分破損して、残れる處凡一尺七寸八分あり、第二紙は一尺九寸一分、第三紙は一尺九寸一分五厘、第四紙より第十一紙までは毎紙一尺九寸二分、第十二
紙は一尺九寸一分あり、第十二紙の終に四寸ほどの空白を剩し、その後下方に「十二枚」と書せり。その後更に異質の白紙（幅二尺六寸二分ほど）を繼ぎ、之に白
木の軸をつけたり。右の表紙、表紙裏、緒軸及び卷末の白紙は皆新しくして、後に加へたるものなり。而して、第一紙及び第二紙に裏打を施せるも亦表紙と同時のもの
と見ゆ。

この本、虫損破損汚染少からず。殊に卷初の部分に於て甚しく、内題も亦缺け損じり。たゞ「江談抄」の「談」の字の偏の左方下端、並に「抄」の字の偏の中央部と
覺しき殘書體に存す。その下方に「高山寺」の朱印あり。最初の一條の最後の行の下方にも亦「高山寺」の朱印あり（但しこの印は卷頭のものと同じからず。卷頭のもの
の方古代に見ゆ）即ちこの本はもと山城梅尾高山寺の所藏にして、高山寺聖教目録（第九十八乙）の條に「江談抄二卷」とあり、寛政四年芝野栗山、住吉廣行等が幕命
を奉じて京畿地方の古社寺寶物を點檢せし時の記録なる寺社寶物展覧目録二、梅尾高山寺の條に「江談抄二卷」とあるものの中の一卷なるべし。この本の神田氏の藏に
歸せしは、喜一郎氏の祖父香巖翁の時と聞けり。

本文は全部同筆なり。處々、欄上より行間にかけて見出しを朱書せるは、本文と同筆か如何は定め難けれど、たとひ異筆なりとすとも、略同時代のものなるが如し。卷
末の「十二枚」の文字は別筆にして後世のものと思ゆ。本書の書寫年代は明ならざれども、書體紙質等によりて觀るに、平安朝末期か、遅くも鎌倉初期を下らざるべし。
この本は流布本（及び前田侯爵所藏寛元三年書寫本）の如き分類體にはあらずして、大體醍醐寺本に類似し、古形を存するものと認めべきが、その内容の醍醐寺本
と一致するは卷首より第三張裏の半に至る凡十ヶ條と、第八張裏より第九張表にかけての部分と、第十五張中の四ヶ條とにして、其他の諸條は兩本互に所見なし。これ
兩本共に完本にあらざるの致す所なれども、條項の順序に於て兩本不同あるは明なり。又この本を流布本に比するに、この本に存する諸條は皆流布本にありて（順序は
因より同じからず）、しかも、流布本のは、この本の如きものより出でたりと認めらるゝもの多し。但し、この本にありて流布本になきもの一條あり（十五張裏、嵯峨天
皇山陵之事の條なり。これは醍醐寺本にもなきが如し）。

この本には本文中三箇處に永久二年及び三年の識語あり。第一のは「永久二年十一月十九日夜」以下の文字難解にて判讀しがたけれど、第二のは「永久三年四月夜半也」
とあり、第三のは「永久三年八月十三日隨書得寫之」とありて、永久二三年に之を書寫せる事を示せるもの如し。永久二年及び三年は匡房の薨後三年及び四年にあた
れば（匡房は天永二年薨じり）、右の年時を以て、實兼が匡房の談話をはじめて筆録せる時とは考へ難ければ、或人の實兼が筆録せる未整理の草稿を、得るに隨つて順次

に永久二三年にわたりて書寫したるものと解すべきかと想はる。醍醐寺本は、その由來明ならざれども、實兼の孫の手に傳はりしを見れば、或は實兼の草稿を、實兼自身又はその子孫の手にて整理したるものなるべきか。若し果して然らば、この本と醍醐寺本とは、やゝ系統を異にするものながら、共に實兼の手稿より出でたるものなれば、江談抄の原形を知るには、缺くべからざるものといふべきなり。もし假に以上の臆測を誤なりとするも、この神田本は醍醐寺本と並ぶべき古寫本にして、永久二三年頃に何人かの手を経たる傳來久しきものなれば、醍醐寺本と相照して原著の面目をうかゞふべく、又書寫の誤も間々あれども江談抄の古寫本は何れも零卷のみにして、この本もその大半は他の古本に所見なき部分なれば、流布本の誤を訂すべき考勘の資料として珍重すべし。其他假名遣假名字體の研究にも資する所あり、學術上の價値少からず。

今この本を複製するに當り、紙幅の都合上、少しく縮寫せり。

昭和五年三月四日

橋 本 進 吉

昭和五年三月廿五日印刷
昭和五年三月廿八日發行

(非賣品)

發行兼印刷者 古典保存會

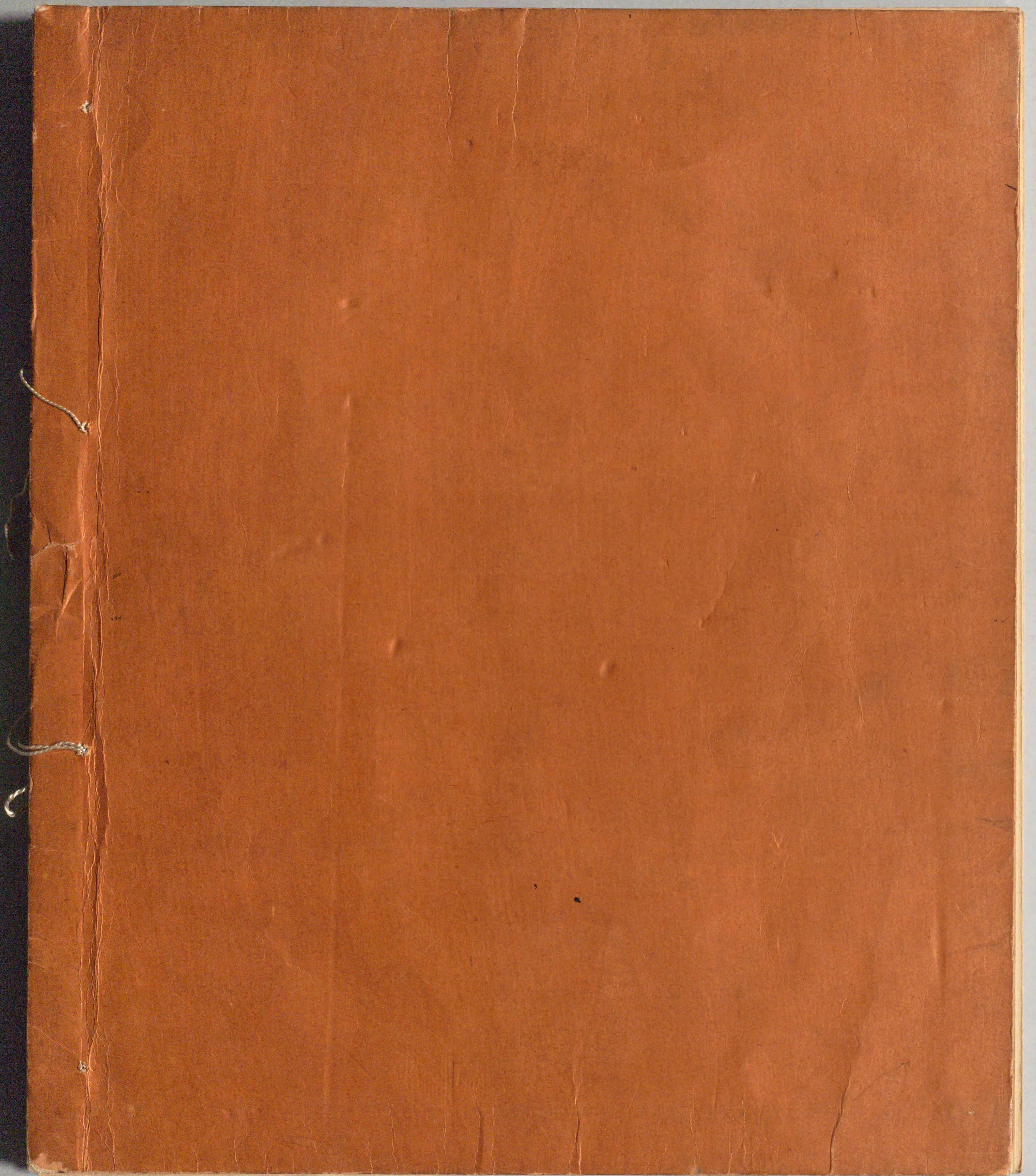
東京市下谷區上野公園東園
右代表者 七條 愷

印刷所 金屬版印刷所

東京市神田區花房町四番地

古典保存會事務所

電話 下谷 六七八八番
振替口座東京 四九四八番



江
談
抄

914.3
0236g



00216516

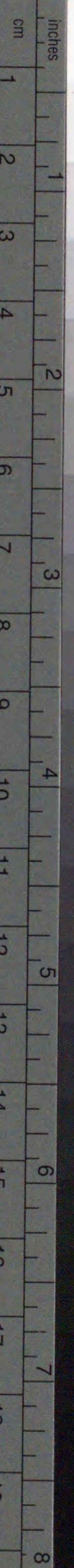


Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



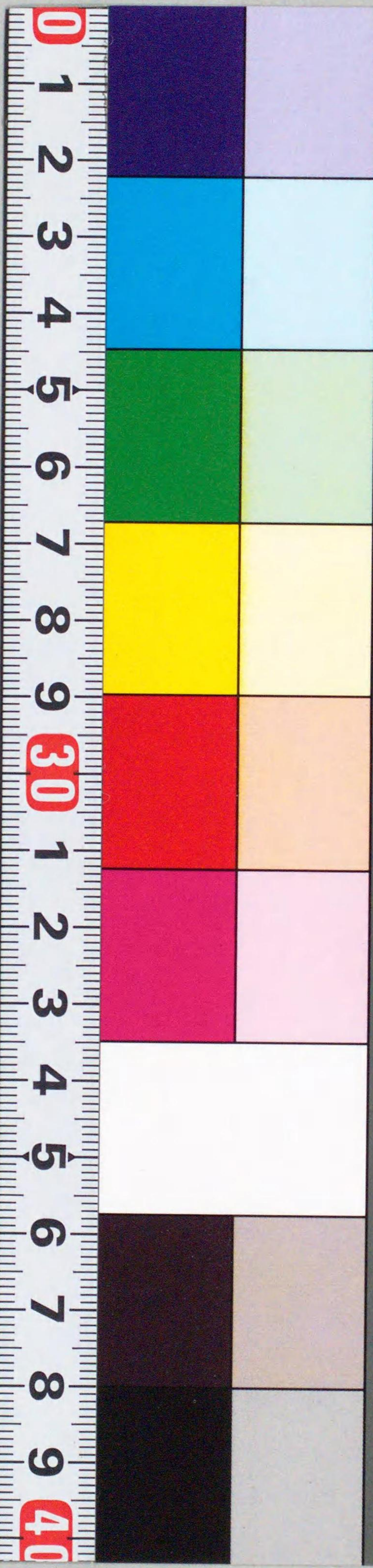
© Kodak, 2007 TM: Kodak



Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30 1 2 3 4 5 6 7 8 9 40